



双塔

カトリック新潟教会

2021年1月
No. 392

今年も愛の運動を

協力司祭 ホセ・ルイス・ロレンゾ

この物語は神学校の神父様から聞いたものです。皆さんと分かち合いたいと思います。

ヒマラヤ山脈で二人の男の人が登山していました。彼らの目的地はその山にある修道院でした。寒さを感じ、二人は早く修道院に到着できるように一生懸命歩いていました。すると「助けて…助けて」と、小さい声が聞こえてきました。探してみると、彼らは負傷者を見つけました。歩けない状態だったので、誰かが助けないと、命が危ない状況でした。二人の登山者が目を合わせて、自分たちの気持ちをはっきり言いだしました。その一人は、「私が思うのは、すべてのこの世の起きていることは神様の意思です。だから、この人がこの山でけがをしているのも、神様の御心です。したがって、私がこの人を助けてあげることで、神様の意思を邪魔してしまいます。助けてあげるわけにはいかないのです。」と言いました。もう一人の登山者は答えました。「そうですか。私はそう思わないです。このけが人を見つけたということは、神様がこの人を助けて欲しいということのしるしです。できることなら、私は助けてあげなければならないのです。」

結局、二人は別れて、一人は修道院を目指して、先に行きました。もう一人の人は怪我をした人をおんぶしながら歩き修道院に向かいました。目的地に近づいたときに、彼は何かにつまずいて、けが人と二人は転んでしまいました。つまずいたのは、先に行った人の遺体でした。厳しい寒さに体が耐えられなかったのでしょうか。そこで、もう一人の人は不思議に考えました。「私も、けがをしている人も同じ寒さにあったのに、どうして私たちはまだ生きているのだろうか。」と疑問に思いました。考えているうちにまもなく結論がでました。彼が怪我をしていた人を背中に背負ったので、彼らの共有された体の暖かさは彼らが生き残るのに十分でした。

この年の初めに、キリスト教徒の私たちは愛のことを忘れずに、日常生活の中で実践しなければならないことをあらためて自分の中にその想いを更新していただければ幸いです。教皇フランシスコの回勅「フラテリ・ツッティー」、友愛と社会的友情についてのメッセージにこう書いてあります。「確かに、COVID-19 パンデミックのような世界的な悲劇は、私たちがグローバルコミュニティであるという感覚を瞬間的に復活させました。すべて同じ船に乗る一人の問題はすべての人の問題なのです。もう一度、一人で救われる人はいないことに気づきました。私たちは一緒にしか救われません。」

世界にはすでに多くの争いや憎しみがあります。もう増加しないように、私たちはイエス様の弟子として、頑張らなければなりません。個人の満足を追求するのではなく、一緒に全世界が良くなるために行動をしましょう。私たちは一人では生きられないです。お互いの愛の暖かさを共有しながら、私たちは永遠のいのちを得られるのです。

そよかぜ便り

■王であるキリストの祭日 11月22日(日)

年間最後の主日「王であるキリスト」の祭日。今年は、9月22日に叙階された成井司教様の公式訪問として、主任司祭と協祭でミサが行われた。教会の暦の最後にあたり、司教様は説教の中でこの一年を振り返られた。新型コロナウイルスで、聖週間を非公開とされ、教会活動も自粛を余儀なくされた事。今年の主の昇天の日初めて司教叙階のことを告げられ、今年の聖霊降臨に司教に任命されるまで「神は私をどのようにお使いになりたいのか」を祈り続けたこと。



。「新潟教会に王であるキリスト像があります。御像を眺めたことがありますか？キリストはどのような王様でしょうか。」と会衆に問いかけられた。ユダヤ人たちが待ち望んでいた強い王とは違う福音書に現れたイエスの姿を語られた。…世の終わりまでともにいてくださる王…。

11時のミサでは、会衆に近づき子どもに「王様ってどんなイメージ？」と直接問いかける場面があった。戸惑う子どもに「急に聞いてこわかったね」と微笑まれた。

コロナの第3波といわれる最中、茶話会もない祭日となったが、司教様はミサ後も信徒となごやかに言葉を交わす姿が見られた

■11月23日(日) 馬小屋作り、ツリー、イルミネーション飾り付け



11月23日(日)午前中の秋晴れの中、9時半ミサ後にはクリスマスツリーの飾り付け、外のイルミネーションの準備、11時ミサ後には馬小屋作りが分担して行われた。例年なら大勢の人でツリーの飾り付けや馬小屋作りが行われるのだが、感染症対策のため少人数ながらも皆さん適材適所で動き円滑に行われた。外のイルミネーションでは、ベトナ

ムの青年たちにも声をかけて一緒に飾り付けた。

今年の馬小屋作りは、新しくなった点が2つ。一つは東方の三博士にキリストの誕生を知らせベツレヘムへ導いた星が、長年使われてきたものからリニューアル。星形の厚紙をアルミホイルで覆った星から、スパンコールで飾り付けされたきらびやかな星へと替わった。もう一つは大天使ガブリエルの羽が修復され、博士たち、羊飼いたちの表情や服装が塗り直されている。(詳しくはホームページ8月16日教会日記をご覧ください)

星の位置決めや像の人数も増えた事で馬小屋の前の像の配置に苦心する場面もあった。そんな中「今年は像の数が増えて馬小屋の前が密ですね」「今年らしくマスクを着用してみてはどう？」など時には談笑しながら楽しく馬小屋作りを行った。



インフォメーション!

●聖書勉強会について

日時 毎週水曜日 午前10時～
会場 カトリックセンター研究室
指導 ラウール神父

●はじめて教会を訪れる人のための聖書勉強会について

日時 毎週火曜日 午後3時～
会場 カトリックセンター研究室
指導 ラウール神父

●信仰養成講座について

「知ってるつもり?!」

日時 12/19 (土) 午前10時～11時
会場 カトリックセンター研究室
指導 主任司祭 ラウール神父

各勉強会、講座に参加される場合は必ずマスクを着用してご参加ください。

●「月曜会」(秋田の聖母を通して祈る会)のご案内

内容 成井司教のミサとロザリオの祈り (どなたでも。ミサのみ参加も可)。

今後の予定 1/25、2/8、3/15 時間 午前11時～

指導 成井司教様

会場 新潟教会聖堂

主日のミサと同様、コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。

●2020年東日本大震災復興支援活動 寄付金へのお礼が届きました

(総務部・からし種の会・東大畑茶寮)

NPO法人福島やさい畑、仙台教区亙理教会、和みサロン真ごころ(カリタス南相馬内)、カリタス本部から、寄付金に対するお礼状とお手紙が届きました。掲示板に掲載しています。ご覧ください。

●ミサで使用する聖書と典礼、お知らせ、聖歌のプリントについて

コロナウイルス感染防止対策として、ミサで使用している聖書と典礼、お知らせのプリント、聖歌のプリントは、使用后戻さず、必ずお持ち帰りください。ご協力よろしく申し上げます。

●ペトロ岡田武夫名誉大司教様帰天

12月18日にかねてより病氣療養中であつたペトロ岡田武夫名誉大司教様が帰天されました。永遠の安息をお祈りください。

(2014年司教館竣工式にて菊地大司教様ブログより)



2021年1月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等	教会の行事
1日(金)	神の母 聖マリア (祭) 世界平和の日	・ミサ (11:00)
3日(日)	主の公現 (祭)	・小教区評議会 (9:30 ミサ後) ・英語ミサ (12:00) ・センター&外のトイレ清掃 (英語ミサ後)
9日(土)		・信仰養成講座「知ってるつもり?!」(10:00 研究室)
10日(日)	主の洗礼 (祝)	・成人の祝福 (9:30 ミサ) ・馬小屋、ツリー、外のイルミネーション片づけ (9:30 ミサ後は外、11:00 ミサ後は聖堂内)
17日(日)	年間第2主日	・聖堂、センター&外のトイレ清掃 ・広報部会 (9:30 ミサ後)
18日(月)		・キリスト教一致祈禱週間 (~25日)
19日(火)		・キリスト教一致祈禱会 (10:30~在日大韓基督教会)
21日(木)		・キリスト教一致祈禱会 (10:30~カトリック寺尾教会)
24日(日)	年間第3主日	・キリスト教一致祈禱週間中心集会 (14:00~日本キリスト教団 東中通教会)
25日(月)	聖パウロの回心 (祝)	
31日(日)	年間第4主日 世界子ども助け合いの日<献金>	・教会維持費の整理 (9:30 ミサ後)

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間：主日日曜日 (7:00 9:30 11:00) 英語ミサ (第1日曜日 12:00)
週日(7:00、金曜日のみ 10:00)

9:30のミサ、11:00のミサ2部制で行います。

各回、それぞれ朗読と共同祈願を選出します。急遽、朗読等をお願いすることがありますので、その際は快く引き受けくださるようよろしくお願いします。

月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

カトリック新潟教会 〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656
http://cathedral-niigata.jp/ TEL025-222-5024 /FAX025-222-5054

